

株式会社 錦糸町ステーションビル

SUSTAINABILITY REPORT 2026

トップメッセージ

私たちは、駅ビルの運営を通じて錦糸町駅を中心とした地域の利便性向上と発展に貢献するとともに、60年以上にわたり地域の人々が集い、交流し、心豊かな生活を実現する場を創出することを使命として、事業活動を行ってまいりました。

近年、社会環境やライフスタイルが大きく変化する中で地域社会が抱える課題も多様化しており、このような変化をしっかりと受け止め当社の理念である「新しい何か」を追求し、人が「集う場」を創造することで、地域とともに持続可能な未来を築いていくことが求められていると認識しています。

当社では、「MORE FUN, MORE SMILES」というポリシーのもと、4つの取り組みテーマを特定し、「環境負荷低減」「持続可能な施設運営」「地域社会との共創」「人材の活躍推進」など重要課題の解決に向けた取り組みを進めております。

これからも、地域に根差した企業として新たな価値を創出しながら、沿線や錦糸町の魅力向上に努めてまいります。

本レポートでは、当社が取り組むサステナビリティ施策についてご紹介しています。ステークホルダーの皆さまにサステナビリティに関する考え方や取り組みについてご理解いただければ幸いです。

代表取締役社長　今田 幸宏



私たちが目指す未来

企業理念

私たちは、錦糸町にとっての
「新しい何か」を追求し、
人が「集う場」を創造することで、
活気と笑顔を導く存在で
あり続けます。

サステナビリティポリシー

MORE FUN,
MORE SMILES

錦糸町とつくる。
活気と笑顔があふれる未来

これからも錦糸町とともに発展し、明るい未来をつくり出すために――。

私たちは、環境保全に取り組みながら、時代の変化に適合した新しい価値を提供しつづけ、地域活性化と地域の社会課題解決に貢献していきます。その実現にあたって、社員一人ひとりが健康であり、幸せであることはとても大きな原動力となります。多様な人材がさまざまな働き方で活躍できる仕組みをつくり、働きがいを持てる企業へと成長します。1961年の開業から支えてくださった地域のみなさまやお客さまへの感謝を忘れず、まちに活気と笑顔を導く存在でありつづけます。

4つの取り組みテーマ

PROTECT



環境をまもる

すべてのステークホルダーとともに、今世界で起きている気候変動への対応や限りある資源循環の仕組みづくりに取り組みます。協働によって生み出される大きな力で、カーボンニュートラルと循環型社会の実現を目指し、安心安全な地域づくりに貢献します。

- ☑ 環境負荷の見える化と低減
- ☑ 取引先と協働した資源・廃棄物の循環仕組みづくりと食品ロスの削減
- ☑ 環境に優しい資源の選択
- ☑ 環境を考慮した出店スキームの仕組みづくり



SUSTAINABLE



場を提供しつづける

生活スタイルや価値観など常に時代の波を的確に捉えながら、お客さまと地域社会に新しい価値を提供しつづけます。

錦糸町の駅ビルとして意義を果たすため、持続可能な運営をおこない、お客さまの“こころ通う、まいにち”を叶えます。

- ☑ リアルショッピングの感動創出およびオンラインを融合させた顧客体験価値の向上
- ☑ 持続可能な営業基盤の構築
- ☑ 多種多様なデータの活用とデジタル化推進による運営変革
- ☑ チームテルミナ スタッフの働きがい追求



CO-CREATION



地域とつくる

開業以来培ったつながりを大切にしながら、地域に根差した施設運営、行政や地元企業、学校などとの共創を推進します。

錦糸町にさらなる活気を生み出し、エリアの価値向上や安心安全なまちづくりに尽力します。

- ☑ パートナーシップ構築による地域との社会課題解決に向けた取組み
- ☑ エリア価値向上につながる地域産業の活性化
- ☑ “まちの防災拠点化”をはじめとした安心安全なまちづくり
- ☑ 地域へのさまざまな体験活動の機会創出



WELL-BEING



社員とともに

多様な人材が活躍できるよう、働き方や業務効率化などモチベーションアップにつながる仕組みをつくり、互いに感謝し合える、風通しの良い職場を目指します。

ワーク＆ライフ インテグレーションを浸透、定着させ、社員とその家族のWell-beingを実現します。

- ☑ 女性活躍推進をはじめ、多様な人材が輝ける仕組みづくり
- ☑ 成長機会の創出
- ☑ Well-beingの実現
- ☑ エンゲージメント向上



環境をまもる
PROTECT

「ごみ」を資源に変える。
ー食品・廃プラスチックの資源循環の実現ー



『UPCYCLING CIRCULAR』はJR東日本が推進する資源循環事業コンセプトです

重点施策

サステナビリティ方針および目標の達成に向けた取り組みとして、4月1日より㈱Jバイオフードリサイクルでの食品廃棄物の処理を開始するとともに、7月よりJ-CIRCULARS㈱での廃プラスチックの処理を開始しました。リサイクル体制を強化することにより、食品廃棄物、廃プラスチックのリサイクル率100%を達成しました。

資源を有効活用する循環型の処理体制への移行を進め、廃棄物の再資源化を実現しています。

お取引先さまからのメッセージ

4月より廃棄物の収集運搬・処理業務を通じてテルミナの環境への取組みに関わらせて頂いています。分別指導、ショップの徹底した分別からサステナビリティへの強い姿勢を実感しております。その積み重ねが廃プラスチック類と食品廃棄物100%リサイクルにつながっています。今後も連携しながら持続可能な社会へ貢献していきます。



株式会社JR東日本環境アクセス
山口　武泰　様

出店テナントさまからのメッセージ

スターバックスコーヒーでは、環境への取り組みとして牛乳パックやコーヒーの豆かすを店内で使用する資材や家畜の肥料・堆肥へと再生利用しリサイクルに取り組んでいます。
御社の活動に関し、事業を活用しながら社会貢献している点に継続的な推進を期待しております。



スターバックスコーヒー
店長
林　みなみ　様

環境配慮型
ダンボール什器の導入

SUSTAINABILITY AWARD 2026 SILVER賞
※当社アワード受賞施策



福祉イベントの什器にリユース可能な段ボール什器を採用し、資源の有効活用および廃棄物削減による環境負荷低減に取り組みました。什器の軽量化により運搬・設営時の作業効率向上を実現し、持続可能な運営に貢献しています。

地元事業者さまからのメッセージ

段ボールは、リサイクルの仕組みが整っている環境にやさしい素材です。当社の段ボール什器を通じ、テルミナの取り組みをサポートできましたことを嬉しく思っております。段ボールのリサイクルは、身近なところからできる環境への気くばり。これからも段ボール什器を使った売り場づくりを通じて、その大切さを伝えていきます。



五十嵐製箱株式会社
代表取締役社長
五十嵐　寛之　様

場を提供しつづける
SUSTAINABLE

東京と地方をつなぐ
ー山形県高畠町んまいもんフェアー

SUSTAINABILITY AWARD 2026
GOLD賞・社員投票賞

重点施策



東京と地方を繋ぐハブとして、山形県高畠町の文化や特産品、観光資源を発信するイベントを開催しました。物産展では公式キャラクター「たかっき＆はたっき」が登場。旬のぶどうやワイン販売も大盛況でした。その他、施設内ショップとのメニューコラボ、旅行プランの提案など、当施設のリソースを有効活用し、高畠町の事業者や自治体、お客さまからも大きな反響をいただきました。本イベントを通して、地域の魅力を発信するとともに地方の新たな可能性を広げるきっかけを創出しました。

地域の魅力を広く発信するため、ショップ参加型キャンペーンを展開。現地取材を通じて生産者の想いや商品の背景を紹介するとともに、地域商材をショップが直接調達するスキームを構築し、酒類の取り扱いなどの課題にも対応しました。今後も地域イベントを通じて地域の魅力発信と送客による地域活性化に貢献してまいります。



営業部
課長代理
高橋　和馬

自治体ご担当者さまからのメッセージ

初開催のイベントでしたが、事前の農園、ワイン工場の視察からスタートし、フェア当日は私達と一体となって高畠町の魅力をＰＲしていただくなど、スタッフの皆様の熱い思いに大変感銘を受けました。ＪＲ錦糸町駅様、テルミナ、高畠町が一体となって取り組んだ当事業は、当町の認知度向上の大きな力となったと感じています！



山形県高畠町　企画課
課長補佐兼情報戦略係長
大河原　多美子　様

無人決済の実証実験に挑戦
「AKOMEYA TOKYO」期間限定オープン



ショップの人手不足の解消とDX推進を目的に、㈱サザビーリーグと㈱TOUCH TO GOによる共同実証実験として、期間限定ショップ「AKOMEYA TOKYO POP UP SHOP 錦糸町テルミナ」をオープンしました。

「ショップ運営 ステップガイド」の導入
駅ビル運営に必要なスキルを明確に

フロア担当業務に必要なスキルを整理し、「ショップ運営 ステップガイド」を策定。半期ごとのセルフチェックと面談を実施し、課題の可視化と、ショップへの提案力・支援力の向上に取り組みました。

フロア担当の基準や業務内容について、これまで曖昧に感じていた部分がありましたが、「ステップガイド」を通じて理解を深めることができました。今後、業務に取り組む姿勢や目標設定を考えるうえで、有用な指標となり、ショップへのサポート力の向上につながると感じています。



営業部
長谷川　雄祐

地域とつくる
CO-CREATION

錦糸町エリアの活性化・魅力向上イベント
ー錦糸町駅5社連携「錦糸超 ちょい呑み巡り」ー

SUSTAINABILITY AWARD 2026 GOLD賞

重点施策



周辺商業施設4社と連携し、錦糸町エリア全体のブランド価値向上と来街促進を目的としたキャンペーンを実施しました。当施設を含め5社・54ショップが参加し、こだわりの料理とドリンクがセットになった「ちょい呑みセット」限定メニューの提供とLINEスタンプラリーを展開。3ショップ以上ご利用のお客さまには、地元の魅力を体験できる賞品として墨田区老舗銭湯“黄金湯”の入浴チケットなどを用意しました。施設間の回遊性向上と地域の魅力・ブランド価値向上につながりました。

近隣施設と一体となってエリア全体の魅力を高め、多くのお客さまに街を楽しんでいただきたいという想いで取り組みました。参加施設やショップからも相乗効果や新規顧客獲得につながったとの声をいただいています。今後も近隣施設との連携を深め、錦糸町エリアのさらなる価値向上とにぎわい創出に貢献してまいります。



営業部
課長代理
小山　隆弘

近隣商業施設さまからのメッセージ

今回の企画は、地域・企業・店舗が連携することで、エリアの魅力発信とにぎわい創出に寄与する有意義な取り組みとなりました。各施設の認知度向上、エリア全体の回遊性向上につながり、多くのお客さまが街歩きを楽しむ様子が見受けられました。オリナス錦糸町は、今後も地域と連携して街全体の活性化に取り組んでまいります。



双日商業開発株式会社
オリナス錦糸町総支配人
武智　俊行 様

BCP（事業継続計画）
災害等に備えた事業継続体制の構築

前年度に策定したBCP（事業継続計画）を運用し、災害やサイバー攻撃などの緊急事態に備えた体制を整備しています。継続的な見直しと改善を通じて実効性を高めるとともに、全社員を対象としたBCPに関するオンライン研修を実施し、緊急時の対応力や事業継続に対する意識の向上を図っています。引き続き、継続的な改善を重ね、実効性の高い事業継続体制の維持・強化を推進していきます。

きれいな街を未来につなぐ
錦糸町駅前清掃活動

2010年度より、有志の社員による駅前清掃活動を継続しています。地域環境保全と地域連携の強化を目指し、2025年度は 8 回実施しました。駅前美化のみならず、社員の環境意識向上や地域交流の促進に寄与しております。



2025年度
回収ごみ総量



地域とつくる
CO-CREATION

地域イベント"Sumida Coffee Festival"
ーイベントを起点に街と人をつなぐー

SUSTAINABILITY AWARD 2026 BRONZE賞

重点施策



東東京エリア最大級の「Sumida Coffee　Festival」との連携を通じて、地域と一体となった価値創出に取り組みました。イベント主催者や地元企業と協働し、それぞれが抱える課題の解決を目指してオリジナル商品の開発・販売を実施。EC、イベント会場、当施設の各チャネルで展開し、相互送客や認知拡大、売上向上につながりました。今回、構築した連携スキームを活かし、これからも地域と協働することで、地元企業の商品や魅力をより多くの方へ届けてまいります。

「当社EC出店の地元ショップと連携したい」という思いから本企画はスタートしました。地域連携パートナーの川瀬様との協働により、地元ショップの人手不足や詰合せ要望に応え、イベント商品を開発・店頭販売し、お客様の声を直に聞く貴重な機会となりました。今後も地域イベントを通じて、地元の魅力発信に貢献していきます。



企画部
辻　暁子

地元事業者さまからのメッセージ

テルミナとのEC連携をはじめとする地域協働の積み重ねにより、「Sumida Coffee　Festival」は1万人規模のイベントへと成長することができました。心より感謝申し上げます。今後もイベントへの認知度や共感を高め、地域の皆様とともに愛着と文化を育み、魅力ある街づくりに取り組んでまいりたいと考えております。



株式会社すみだ珈琲
代表取締役
廣田　英朗　様

みんなとつながるクリスマス
地域とつくるインクルーシブな館内装飾



「みんなでつながるクリスマス」をコンセプトに、地域福祉事業所の障がいのある方、デザイン会社、当社社員が協働でクリスマスビジュアルデザインを制作。館内装飾に展開し、地域福祉への理解促進と交流機会の創出に取り組みました。

連携企業さまからのメッセージ

この企画は、アートを通じ誰もが参加できるイベントを実現しました。障がいの有無を超え、地域の人々による共創した作品が一つの装飾として共存する姿は、地域社会の理想の姿です。この取り組みが、誰しも置いていかない、誰しも輝くことが当たり前の社会につながることを願い、今後もテルミナを応援していきたいと思います。



合同会社グリップグラップ
代表
仲西　亮平　様

社員とともに
WELL-BEING

健康経営の推進
健康アプリを利用したウォーキングイベントの開催

重点施策



社員が楽しみながら継続的に健康づくりに取り組める環境づくりを目的に、JR東日本グループ共通健康アプリ「キュオリズム」を活用した「ウォーキングイベント」を開催しました。衛生委員会メンバーの協力のもとチーム対抗戦とし、積極的な声かけや進捗共有を実施。結果、38名（参加率78%）の社員が参加し、健康意識の向上に加え、チームで協力することでコミュニケーションの活性化やチームビルディングにもつながりました。

「社員が楽しみながら健康につながるイベントを」と考え、「テルミナ対抗 ウォーキングイベント」を開催。イベント後のアンケートでは「楽しんで参加できた」「また参加したい」という声もあり、嬉しい手応えを感じています。今後は、食事やこころの面でも、笑顔でワクワクしながら、健康になれる職場づくりを目指します。



総務部
課長代理
茅場　裕美

産業医さまからのメッセージ

産業医の視点から、貴社の取組みは素晴らしい健康経営の実践だと実感します。法令遵守の衛生委員会で安全衛生の土台を築きつつ、社員全員のウォーキングイベントにより予防や職場活性化に繋げる姿勢は大変理想的です。心身の健康は生産性向上に直結するため、今後もこの良好な風土を継続してください。



産業医
井貫　正彦 先生

人権尊重研修
人権を守るためのネットリスク対応



社員の人権意識向上のため、毎年全社員研修を実施しています。2025年度は、SNS上の人権侵害・誹謗中傷をテーマに、発生の背景や予防法を学習しました。他者の多様な視点を尊重し、人権を守ることの重要性を再認識しました。

社員とともに
WELL-BEING

持続可能な組織づくりを支える人材育成
チームビルディング・１on１ミーティング



重点施策

組織内コミュニケーション活性化とエンゲージメント向上を目的に、全社員を対象とした「チームビルディング研修」を実施しました。心理的安全性の高い組織づくりやチームワーク向上、「Ｋゲーム」を活用した自立的な対話を促すプログラムにより、組織力の強化を推進しました。また、昨年より実施している1on1ミーティングをより効果的なものにするため、管理職対象に「1on1研修」にて実践的なロールプレイングを行い、対話力や傾聴力、マネジメントスキルの向上を図りました。

昨今はAIやSNSの普及等、人を介さず物事が成り立つ時代ですが、人と人の接点や「人だからできること」は、多く存在します。私たちは社員やお客さまの心に寄り添い、それを業務に生かしていかなければなりません。本研修を通じて「相手の気持ちになる」ことを学び、ステークホルダーとの信頼構築を実践してまいります。



取締役
総務部長
小林　伸夫

チームビルディング研修では部署を超えて課題に取り組むことで新鮮な驚きと発見がありました。1on1ミーティングでは業務以外の話からメンバーの意外な一面を知り、継続的に話すことで考えや個性が見えるようになりました。今後は1人1人の個性を活かし、みんなが安心して働ける、チームテルミナを目指していきたいです。



営業部
課長
山﨑　加奈子

サステナビリティアワード
社員投票賞の導入で高まる参加意識



サステナビリティへの意識向上と事例共有を目的に、2025年度の取り組みについて「サステナビリティアワード」を実施しました。新たに社員投票賞を導入。社員が審査に加わることで、参加意識が高まり、方針の浸透を図るとともに、社員一人ひとりの「自分ごと化」を促しました。

アワード監修者さまからのメッセージ

各企画が、サステナビリティの４つの取り組みテーマと結び付き、全体として昨年より一段とレベルアップした素晴らしい内容だったと思います。今後は、人権への対応や成果の財務価値化、テナントとともに行う取り組みなど、さらに進化した姿を見せていただけることを楽しみにしております。



株式会社YUIDEA
サステナビリティ経営コンサルタント
伊藤　英紀　様

私たちの歩み

2022年9月にプロジェクトを始め、
地域と未来のために少しずつ歩みを重ねています。

主な取り組み内容

2021年度以前

- 錦糸町駅前エリアの清掃活動　※2010年度より開始
- 「錦糸町を元気にする会」参画を通じた地元イベントへの参加開始
- 地元企業出店サポート強化の開始
- 人権尊重研修　※2018年より開始

2022年度

- 「ハロー！イースト東京」地元情報発信サイトの運営
- EC事業の開始
- サステナビリティ基本方針策定に向けたプロジェクトの発足

  目指すべき未来像を明確化するとともに、環境・社会・経済の観点から優先課題を抽出し、社会からの要請と当社事業への影響度を踏まえて重要課題を特定しました。特定した課題については、全社員へのヒアリングや一部取引先からの意見収集を行い、得られた知見を反映して具体的な取り組み目標を策定しました。

2023年度

- サステナビリティポリシー策定

MORE FUN,MORE SMILES
錦糸町とつくる。活気と笑顔があふれる未来

- サステナビリティアワード開催　※2023年度より開始

2024年度

- 衛生委員会を発足
- 錦糸町駅周辺商業施設向け従業員優待サービスの開始
- 地元企業のチャレンジ出店スキームの制度化
- サステナビリティ目標達成に向けたKPIの設定
- 「サステナビリティレポート」発行　※2024年度より開始
- BCP（事業継続計画）の策定

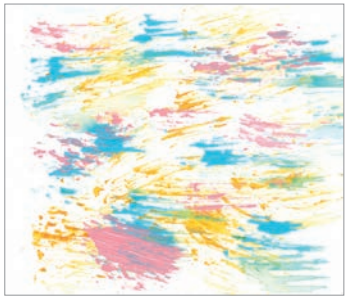
2025年度

- 食品廃棄物・廃プラスチックのリサイクル体制の構築
- 東京と地方の交流促進を目的とした地域フェアの開催
- 錦糸町エリア5社連携によるエリアのブランド価値向上イベントの開催
- 地域イベントとの連携によるオリジナル商品開発・販売
- 地域参加型のインクルーシブアートによる館内装飾
- 社員の健康づくりに向けたテルミナ対抗ウォーキングイベント

未来へつづく

- 社員のエンゲージメント向上に向けたチームビルディングおよび1on1ミーティングの実施

表紙のイラスト紹介



墨田区の社会福祉事業所に通う障がい者の才能と個性を引き出し、平等な支援を通じて多様性と共生社会の実現を目指すため、「亀沢のぞみの家」の感覚刺激イラストを採用しました。

「亀沢のぞみの家」感覚刺激イラスト



墨田区の「亀沢のぞみの家」では、心身に障がいのある方たちの興味や関心を大切にしながらワクワクと楽しい経験をたくさんできるような取り組みを行っています。「感覚」を「刺激」する目的で創作活動にも取り組み、アクリル絵の具で絵や模様を描くことを行っています。

※売上は、材料費などを除き、絵を描いたメンバーの工賃として役立てられます。

重要業績評価指標　Key Performance Indicator

データ対象範囲：株式会社錦糸町ステーションビル

取り組みテーマ	KPI	2030年度達成目標	2023年度	2024年度	2025年度
環境をまもる	CO_2排出量削減	2,486千kwh／2013年度比50%削減	37%削減	35%削減	40%削減
	エネルギー原単位	毎年1%削減（5年間平均）	0.1%削減	1.8%増加	0.9%増加
	エネルギー消費量	設定なし	1,318kl	1,362kl	1,341kl
	食料品廃棄物リサイクル率	100%	17%	19%	100%
社員とともに	育児休業取得率（男女別）	100%（男性 100%／女性 100%）	100%（男性 100%／女性 100%）	ー（該当なし）	ー（該当なし）
	育児休業後従業員の定着率（男女別）	100%（男性 100%／女性 100%）	100%（男性 100%／女性 100%）	100%（男性 100%／女性 100%）	ー（該当なし）
	人権尊重研修受講率	100%	100%	100%	100%
	女性管理職比率	40%以上維持	41%	38.9%	37.5%
	年次有給休暇取得率	95%	91.4%	89.6%	93.9%
	ストレスチェック受検率	95%	90.6%	93.3%	100%
	月間所定外労働時間	10時間以下	11時間22分	11時間51分	13時間15分

サステナビリティデータ	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績
従業員数（男女別）	41名 男性23名／女性18名	44名 男性25名／女性19名	41名 男性25名／女性16名
平均年齢	45.3歳	45.1歳	45.9歳
採用人数	3名（※）	4名（※）	3名（※）
離職率	4.6%（※）	4.5%（※）	9.8%（※）
人間ドック・健康診断受診率	100%	100%	100%
SDGsイベント数	3件	3件	5件
地域ショップ機会創出・総店舗数（テルミナ・EC）	常設 25ショップ POPUP 9ショップ	常設 37ショップ POPUP 8ショップ	常設 38ショップ POPUP 10ショップ
地域との協働イベント件数	8件	10件	8件

※出向者・出向復帰者を除いています

TERMINA
株式会社 錦糸町ステーションビル
〒130-8580　東京都墨田区江東橋3-14-5　https://www.termina.info/

対象期間　2025年4月1日～2026年3月31日（一部、報告対象期間前後の報告も含みます）　発行時期　2026年9月発行